



今年度のESDの重点目標（取組）

「健康」をテーマに継続的で効果的な取り組みをしよう。

食・健康

【令和5年度 ESD 実践報告】

「教育を核とした持続可能な地域社会の構築」と学校教育の重点目標にある中で、八千代台東小学校では何が出来るのだろうかと考えました。そこで、持続可能な社会の構築には、そこで生活する人々の心の健康、体の健康が不可欠であるため、「食・健康」にテーマを絞り、各学年での取り組みを報告します。

6年	外国語	6年の食育の学習を外国語学習と関連付けさせた。
5年	総合・社会	米作りを通して、普段食べているお米の大切さを知った。
	保健	心のバランスについて知り、自分達の心の状態を考えた。
4年	保健	歯磨き習慣定着を目指して、カードを作り、歯の大切さを学んだ。
	保健	牛乳を飲むと体にどのようなよいことが起こるのか学んだ。
3年	保健	健康な生活 食事バランスについて考えた。
	社会	モーモースクールで実際の牛とふれあい、牛乳の大切さを知った。
2年	保健	牛乳を飲むとどんないいことがあるのかを考え、実際の給食でも挑戦していけるように活動した。
1年	保健・生活	学校の基礎リズムに慣れ、手洗い・規則正しい生活の良さを知った。



5年 米作り体験

田んぼ作りから始め、田植えや稲刈り、そして、脱穀やもみとりを経験しお米を自分達で炊いて食べる体験をしました。この体験を通して、普段食べているお米の有難さを知る経験につながりました。そこから、自分達が食べているお米はどこから来ているのか、どんな人が作っているのかと疑問をもち調べました。



「こども環境白書」にあるESDの視点から気づき、考え、行動できる人が多くでも育つように、教員全員で右に書かれている視点をもった授業をできるようにしようと共有しました。

ESDの視点で捉える

(持続可能な社会で大切なことを理解する)
～捉え方の例～

- 多様性** いろいろある
 - 自然・文化・社会・経済は、多種多様な要素から成り立っています。それぞれの多様性を尊重するとともに、事例・問題を多面的に見たり考えたりすることが大切です。
- 相互性** 関わり合っている
 - 自然・文化・社会・経済は、互いに連携し合うシステムであり、人々もそれらとつながりをもち、人間性も関わり合っており、相互に作用していることを理解することが大切です。
- 有限性** 限りがある
 - 自然・文化・社会・経済を成り立たせている資源や環境や資源は有限であり、それらに変えられた社会発展には限界があることを知るとともに、持続可能な社会の構築に貢献していくことが大切です。
- 公平性** 一人ひとりに大切に
 - 持続可能な社会の構築は、一人ひとりの人権や生命が尊重されることです。権利の保障や意思の尊重が公平である必要があり、地域や世代を超えて理解される必要があります。
- 連携性** 力を合わせて
 - 持続可能な社会の構築・維持には、多様な主体の連携・協力が不可欠であり、意思や立場が違っても、資源・知識を共有しながら、互いに助け合い問題を解決していくことが大切です。
- 責任性** 責任をもって
 - 持続可能な社会を構築するためには、一人ひとりが責任と義務を自覚し、望ましい将来像に対する責任あるビジョンを持って、他人任せにせず、自ら進んで行動することが大切です。

ESDの視点で工夫する

(問題解決に必要な能力・態度を身に付ける)
～工夫の例～

- 批判** 批判的に考えよ
 - 合理的、客観的な情報や公平な手段に基づいて意見を述べよ。
- 未来** 未来像を予測して計画を立てよ
 - 過去や現在に基づき、あるべき未来像(ビジョン)を共有し、実現に向けて、思い・予測・期待し、それを通じて共有しながら、ものごとを計画し、行動するよ。
- 多面** 多面的に考えよ
 - 人・もの・こと・社会・自然など自分とつながり、かわりに関心をもち、自分の気持ちや考えを伝えよ。
- 協働** 協働して考えよ
 - 他者の立場に立ち、他者の考えや行動に共感するとともに、他者と協力・協働してものごとを進めようとする態度。
- 参加** 参加して学ぼう
 - 集団や社会における自分の役割や行動に責任をもち、自分の役割を理解するとともに、ものごとに主体的に参加しようとする態度。